

重点取組分野	令和元年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく 知	①全教員が重点授業研究を通じて授業づくりに努め、子どもの主体的な学習を実現させるとともに、主として国語の授業を中心に子どもの書く力の系統性を重視してその力を高めていくようにする。②生活科や「横浜の時間」を中心に地域や社会と関わり合う時間を設定して、問題解決的な学習を行いながら子どもの表現力を高めていくようにする。	①授業研究を通して、子どもたちが主体的に学習に取り組めるような単元構成の工夫を考えた実践を行ってきた。今後は、身に付けた力を他教科や行事など様々な場面で生かしていけるようにする。②学校農園、花壇などの縮小によりかなり制約があるが、キラキラ応援隊の協力を得て、地域とのつながりを大切に学習を実施するように努めてきた。「横浜の時間」では、地域と関わる材に出会わせることで深い学びにつながるよう意識した。	B
豊かな心	①道徳の時間や各教科の授業において、物事の善悪や自他を思いやる心を育てるようにする。②年間を通じて全クラスが1回以上道徳の授業参観を行う。③人権月間に限らず、思いやりの心やたくましく生きることの大切さを学ぶ機会を各学年で設けていく。④「挨拶運動」を全校で実施し、進んで挨拶をする態度を育て、いじめの起きにくい風土をつくる。	①②道徳科や各教科の学習を通して、自他を思いやる心や規範意識を育てていけるように指導を行った。③人権月間に限らず、学年集会や人権教室などで誰もが違うことを理解できるような機会を設け、指導することができた。④挨拶目標を作り、月ごとに視点を変えて指導することで、挨拶のよさを実感することができた。実際に声に出して気持ちのよい挨拶をすることには、まだ課題があるので、引き続き指導していく。	B
健やかな体	①「長縄集会」や「縄跳び運動」など年間を通じて実践する取組を通じて体を動かすことの楽しさや能力を高めることの喜びを学ぶ機会を設定する。②「長縄中休み」を設定して、全校が一同に長縄に親しむ機会を継続的に実践する。③学校保健委員会を年に2回開き、自分の体の健康について学び、めあてに向かって努力することの大切さを学ぶようにする。	①②5月から各学年で確実に長縄の記録を伸ばしている。朝や中休みなど、クラスで集まって練習する姿が見られる。今年度からキラナフ中休みの直前3日間にチャレンジタイムという練習時間もとっている。③学校保健委員会において、テーマに合わせて代表児童を中心に話し合い、各クラスに共有することで全校の健康や安全に対する意識を高めることができた。定着を図るためには、年間を通しての継続的な取組をする必要がある。	B
地域との協働	①校舎移転が完了し、新しい場所での登下校の安全面においては地域や保護者の協力がより必要になるため、情報の発信、共有に努めて共に歩む学校を目指していく。②学校教育説明会・報告会、学校づくり懇話会などの機会を通して、学校経営方針を地域や保護者に分かりやすく説明・報告する。	①年度当初の新入生の方面別下校は、次年度に向けて、現状を踏まえたルートに見直しを行った。学校地域コーディネーターを中心に「こやすキラキラ応援隊」が発足し、教育活動の様々な場面で保護者や地域の方の協力を得ることができた。次年度はさらに計画的に、ボランティアの協力を得ることで、教育活動の充実を図りたい。②地域・保護者への情報発信を適宜行うことに努めた。次年度の学校運営協議会発足に向けて、内部、外部双方からの評価を踏まえて学校運営を行う必要がある。	B
キャリア教育	①地域にある工場や企業、人材を活用して、見学や体験など地域と連携した授業づくりを行う。②学校行事や学年行事などを通して、自己を見つめ将来の夢や希望をもつ機会を設定する。③地域の大人やプロフェッショナルなど、優れた人材と触れ合う機会を設け、プログラミング教育の先行実施のほか、新学習指導要領を見越した取組を実践していく。	①③高学年を中心にNPO法人の協力を得てプログラミング教育の先行実施を行った。中学年以下も学年に応じた教具を使って実施した。クラス総合で、扱う教材や人材に量や質の差があるのは課題である。②専門分野については、詳しい方の話を聞いたり、教わったりすることができるように今後も講師リストを作成していく必要がある。	B
情操教育	①年間を通じて、音楽に親しめるよう「音楽朝会」を月1回実施して継続的に合唱する機会を設ける。②「ウインターコンサート」を通じて仲間と共に合唱を行うことの楽しさ、協力して合奏することの喜びを感じられるようにする。③子どもが読書習慣を身に付けられるように、週3回の朝学習のうち1日を全校読書日と定めるほか、読書習慣が身に付けられるように働きかけを行っていく。	①②「朝の歌」や「音楽朝会」など、年間を通して全校をあげて音楽と真剣に向き合うことができた。また、ウインターコンサートでは各学年が一つとなり音楽をつくりあげることによって意欲が高まり、みんなで音楽を楽しむことができた。③全校読書の日は定着してきた。また、学校司書、図書委員、ボランティアによる読書推進の取組が数多くなされ、11月の読書月間の貸し出し冊数は2000冊を超えた。	A
いじめへの対応	①児童支援専任を中心とした組織的な指導・支援体制を整え、教職員が連携していじめ等問題行動の早期発見と対応を行う。②発達段階に応じたいじめの未然防止のための取組を実践し、起きた時には早期対応するよう職員、関係機関と連携をする。③相談窓口の明示、定期的なアンケート、個別の面談を実施して状況の把握に努める。	①②未然防止から早期発見、事案の対応とその後の見守りまでを担当が一人だけで対応するのではなく、学年や学校全体で取り組めるようになってきた。子どもたち同士のかかわりの中で、不適切なかかわりが見られることもあるので、友だちとの適切なかかわり方についての指導を今後重点的に取り組むように努める。	A
人材育成・組織運営(働き方改革)	①校内研修の計画的な実施によって、子どもの学習や生活に対する指導力や危機管理対応能力など、今学校に求められる教職員の資質・能力の育成に努める。②校内初任者研修及びメンターチーム研修の充実、経験者層のメンターチームへの適切な参画によって、若手教職員が指導力・実践力を高められるようにする。	①必要に応じ、的確な研修を行うことができた。職員一人ひとりが課題意識をもって研修に臨むことができた。②メンターチームは時間的な制約がある中でリーダーを中心に自分たちのニーズに合わせて、経験者層も加わりながら計画的に研修を行うことができた。働き方改革に関しては、会議の精選や年間授業時数の確認等改善を図っていく必要がある。	B
ブロック内評価後の気付き	今年度から始まった中期学校経営方針に伴い、9年間で育てる子ども像、育成を目指す資質、能力について検討し、見直しを行った。小学校での授業研究は、3校それぞれで担当教科の授業を行うが、情報交換を密に行い、目指す資質、能力を意識した授業を行うことができた。研修会や情報交換を行うことで、全職員で考えることができ、ブロックとしてのまとまりが一層深まった。新教育課程完全実施に向けて、修正や改善を行いながら、引き続き今後も、このブロックで目指す「9年間で育てる子ども像」を意識した授業づくりをしていくようにする。		
学校関係者評価	今年度の本校の教育活動について、学校づくり懇話会で様々な視点から意見をいただいた。特に地域との協働という視点から、「こやすキラキラ応援隊」の活動に関して、教育活動の充実につながっている点と地域と共につくる学校につながっているという点で、大きな成果を上げていると高い評価を得られた。また、いじめへの対応については、職員一丸となって、撲滅を目指して早期発見、未然防止に努めていることを、すばらしい取組であると評価していただいた。地域と協働して学校を運営していくという姿勢を理解していただくと共に、地域の方々も学校に協力していきたいという強い意志を感じた。		
中期取組目標振り返り	本年度の重点項目のうち、教職員による自己評価で「いじめへの対応」、「情操教育」の2項目がA評価になった。職員一丸となった児童支援体制により、いじめの未然防止、早期発見につながった。問題行動があった際には、すぐに対応できる体制が整っている。昨年年度設置された「こやすキラキラ応援隊」(地域学校協働本部)は、今年度より本格的に活動し、教育活動の充実につながった。今後も、引き続き地域と協働して学校運営していくようにする。来年度は新学習指導要領が完全実施となるため、行事のあり方、運営面など、一部変更を加えながら工夫する。これまでの成果を生かしながら、新たな課題面について検討し、よりよい学校運営につなげていきたい。		